

# PSC 製本管理システム「綴之助」導入

ナショナル製本協同組合（東京都板橋区、藤本繁幸代表理事）は、主に出版社や大手印刷会社などを取引先に、実用書や小説、コミックの製本から発送までを一貫生産している。同協組は今年1月、10年以上使用してきた基幹業務システムをピー・エス・シー(株)の製本管理システム「綴之助」に切り替えた。切り替えた当初の理由は「圧倒的な価格差」であったが、運用を行っていく中、実務面でも様々なメリットが見えてきているようだ。

## ナショナル製本協同組合

ナショナル製本協同組合（東京）は、主に出版社や大手印刷会社などを取引先に、実用書や小説、コミックの製本から発送までを一貫生産している。同協組は今年1月、10年以上使用してきた基幹業務システムをピー・エス・シー(株)の製本管理システム「綴之助」に切り替えた。切り替えた当初の理由は「圧倒的な価格差」であったが、運用を行っていく中、実務面でも様々なメリットが見えてきているようだ。

月産280万冊ほどの受注がある。オペレーターによる注がりますが、上製本は目視検査は並製本ならは年々少なくなっています。200〜300冊に1冊、上製本なら50〜100冊に1冊の頻度で抜きます。特に並製本は予備幹業務システムを見直す。

「不良は内部で食い止める。検査体制に自信」

## 圧倒的な価格差で決断 10年以上使用のシステムから切り替え

ナショナル製本の第一の強み。それは人の目による検査に加えて、充実した検査システムによる徹底した「品質管理」にある。全ラインに乱丁検査装置を搭載しているほか、トライオート（製本カバリー掛け機）の不良検知機能も補助的に活用して減少しました（青木専務理事）

取り検品を行っている。この検品体制により、万が一不良が見つかった場合、前後の範囲が限定されるため、検品を行う際に不良を追いかけ易く、不良の外部流出も減少しました（青木専務理事）

「不良は表に出さない。読者の手に渡る前に、内部で食い止める。これがナショナル製本の品質管理のモットーである。何ら問題はなかったよう

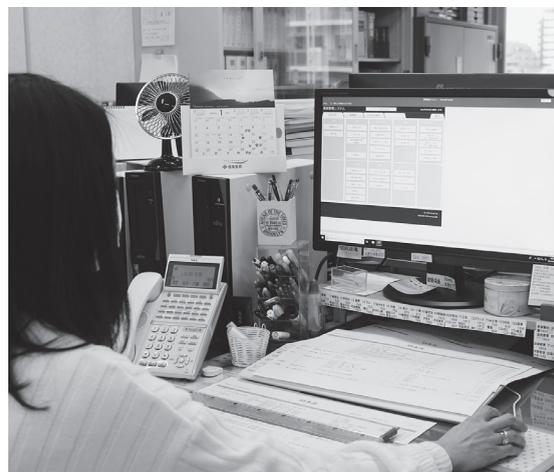
だが、「ただ一つ大きな問題がありました」と青木専務理事。Windowsがバージョンアップするたびにソフトを作り直す必要があったように、その度に1000万円ほどの費用が掛かっていたというのである。

「常用品は62名ですが、そしてWindows10になった時、4000万円かかると言われ、これが10年以上使用してきた基幹業務システムを見直す契機となった。

「さすがに非生産設備に費用が掛かり過ぎる」と思い、前々から気になっていた。ピー・エス・シーさんに相談したところ、1000万円程度で同等の機能のシステムを提供できると聞き、切り替えを決定しました（青木専務理事）

「さすが印刷・製本業界に特化しているからなのか、『綴之助』に使用されているフォントは以前前のシステムと比べて見やすく、『五感』に訴え

「将来的には損益計算が、以前のシステムから進を期待したい。」



「書体が見やすく、用語も分かりやすい」と事務スタッフ

書の作成など、財務面も含めたシステムにしても、というのとピー・エス・シーさんに相談して、業務担当者も、基幹業務システムとして、すべてを任せたいと言っており、使用している現場の評価は非常に高いと思います（青木専務理事）

「綴之助」と連携しているパソコンは19台。このうち、総務、営業、生産管理で使用している9台が入力可能にも増えており、製本も「品質管理」を徹底していくとともに、サービス面をさらに強化していく姿勢を示す。

「昨今は製本だけでなく、発送まで含めた仕事も増えており、製本もサービス業に近いと感じることが多くなっています。従来はなかった仕事にもうまく対応しながら、新たな時代の製本業へと少しずつ変革を遂げ、生き残りを図っています（青木専務理事）

コロナ禍による巣ごもり需要なども手伝い、出版市場は一部回復もみられるようだ。厳しい現状の中、さらなる飛躍に向けて奮闘する同協組の躍進を期待したい。

### 特集

## 製本・後加工

# POSTPRESS 2021



青木専務理事

「不良は表に出さない。読者の手に渡る前に、内部で食い止める。これがナショナル製本の品質管理のモットーである。何ら問題はなかったよう

だが、「ただ一つ大きな問題がありました」と青木専務理事。Windowsがバージョンアップするたびにソフトを作り直す必要があったように、その度に1000万円ほどの費用が掛かっていたというのである。

「常用品は62名ですが、そしてWindows10になった時、4000万円かかると言われ、これが10年以上使用してきた基幹業務システムを見直す契機となった。

「さすがに非生産設備に費用が掛かり過ぎる」と思い、前々から気になっていた。ピー・エス・シーさんに相談したところ、1000万円程度で同等の機能のシステムを提供できると聞き、切り替えを決定しました（青木専務理事）

「さすが印刷・製本業界に特化しているからなのか、『綴之助』に使用されているフォントは以前前のシステムと比べて見やすく、『五感』に訴え

「将来的には損益計算が、以前のシステムから進を期待したい。」

「綴之助」と連携しているパソコンは19台。このうち、総務、営業、生産管理で使用している9台が入力可能にも増えており、製本も「品質管理」を徹底していくとともに、サービス面をさらに強化していく姿勢を示す。

「昨今は製本だけでなく、発送まで含めた仕事も増えており、製本もサービス業に近いと感じることが多くなっています。従来はなかった仕事にもうまく対応しながら、新たな時代の製本業へと少しずつ変革を遂げ、生き残りを図っています（青木専務理事）

コロナ禍による巣ごもり需要なども手伝い、出版市場は一部回復もみられるようだ。厳しい現状の中、さらなる飛躍に向けて奮闘する同協組の躍進を期待したい。